

歯科衛生学教育コア・カリキュラム
—教育内容ガイドライン—

2022 年度改訂版

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 作成

2022 年 3 月 31 日発行

目 次

「歯科衛生学教育コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー」 2022年度改訂版 前文	1
A. 「歯科衛生学教育コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー」 2022年度改訂版作成の背景と考え方	1
B. 歯科衛生学教育コア・カリキュラムの基本理念	3
C. 臨地実習について	3
D. 歯科衛生学教育コア・カリキュラムの表示方法	4
E. 歯科衛生士に求められる基本的な資質	4
歯科衛生士学校養成所指定規則に定める教育内容修得単位表（抜粋）	6
基礎分野	7
A. 科学的思考の基盤	7
B. 人間と生活	8
専門基礎分野	11
A. 人体の構造と機能	11
B. 歯・口腔の構造と機能	15
C. 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進	17
D. 歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み	22
専門分野	31
A. 歯科衛生学総論（歯科衛生士概論）	31
B. 臨床歯科医学	32
C. 歯科予防処置論	38
D. 歯科保健指導論	41
E. 歯科診療補助論	46
F. 臨地実習	54
G. 歯科衛生学研究	60
歯科衛生学教育コア・カリキュラム小委員会委員と担当分野	61

「歯科衛生学教育コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー」2022年度改訂版

A. 「歯科衛生学教育コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー」

2022年度改訂版作成の背景と考え方

国民はより良質な医療が提供されることを強く求めている。平成26年6月25日に公布された「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」(平成26年法律第83号)により、医療職の確保と相互連携が重要視され、平成27年4月1日から施行された改正歯科衛生士法のもとでは、歯科衛生士養成所の指定・監督権限が厚生労働大臣から都道府県知事に移譲され、新たに「歯科衛生士養成所指導ガイドライン」が定められ、保健・医療・福祉の分野は大きな変革期を迎えている。

歯科保健医療に関する国民のニーズが多様化し拡大する中で、良質な歯科保健医療サービスを提供していくためには、歯科衛生士数を充足し、資質の向上を図ることがきわめて重要である。そのためには、歯科衛生士養成校における歯科衛生学教育の質を一層高め、一定水準の質を担保すると同時に教育内容を再編成して多様化を図る必要がある。従来、教育内容は、各養成校や担当教員の裁量に委ねられていた。また、国家試験出題基準の区分に縛られて、その見直しが十分行われにくい状況も見受けられる。平成16年9月に改正された歯科衛生士学校養成校指定規則は大綱化されており、具体的なカリキュラム作成にあたっての指標となる歯科衛生学教育の内容をガイドラインとして提示してほしいとの会員校からの要望もあった。これらを背景として、歯科衛生士教育全体の視点からこれまでの教育内容を見直し、歯科医療技術の進歩と時代の要請にあわせて再編成するために、まず、すべての養成校の学生が履修すべき必須の学習内容を精選する必要がある。また、社会から求められている患者とのコミュニケーションや安全性の確保などの学習内容を付加することも急務である。さらに、知識を詰め込むことを中心に行われてきたこれまでの教育方法から、生涯にわたり自ら課題を探究し、解決していく能力を身につけられるような学生主体の学習方法に積極的に転換することも必要である。

コア・カリキュラムとは米国のハーバード大学において4年間の教養人養成カリキュラムを多様な学問分野「文学と芸術、科学、歴史研究、社会分析、外国文化、道徳理論」に種分けし、これらを基本のコアとし、専攻分野を除く各コアをバランス良く履修することにより、各コアでの学問の方法を身につけることを目標にしたことから始まる。以後、米国では種々な分野の教育プログラムにコア・カリキュラムという用語を用いるようになった。現在では、ある教育目標を達成するための中心(コア)となる教育項目とその内容(カリキュラム)を示し、科目というよりは、定められた期間内に何をどこまで学ぶかという教育目標を示すことである。そして、各教育機関は、この目標を達成するために適切な科目を設定し、最適な順番でカリキュラムを展開することが求められる。

医学教育、歯学教育および薬学教育では、全国的基準で医療の質を保証すること、国際的に通用することを意識して、モデル・コア・カリキュラムを作成して、6年間の実践的臨床能力育成の目標を明確にしている。医師、歯科医師および薬剤師とともに歯科衛生士を含む種々の医療技術専門職も国民の医療を担うからには、医療技術専門職養成教育それぞれにモデル・コア・カリキュラムが必要であると考え。その一環として、歯科衛生学教育においても歯科衛生士に対する社会のコアとなる歯科衛生学教育の内容をガイドラインとして提示することが望ましい。

そこで、有能な歯科衛生士を養成するために必要な教育上の諸問題について研究、協議を行うと共に、教員指導者の資質向上をはかり、歯科衛生学教育の充実発展に寄与することが目的である全国歯科衛生士教育協議会では、歯科衛生学教育コア・カリキュラムの作成を検討した。なお、本会は、平成22年3月に「ベーシック・モデル・カリキュラム」を作成している。現行の指定規則では4つの分野の大項目ごとの単位数の表記のみで、具体的な教育内容とその時間数については各養成校が考えることになっている。平成22年4月から全養成校の修業年限が3年以上になるにあたり、現場からはモデルとなるカリキュラム案を示して欲しいとの要望が相次いだことから、最新歯科衛生士教本（医歯薬出版）の目次の網羅型として作成したものが「ベーシック・モデル・カリキュラム」であり、コア・カリキュラムの概念に沿ったものではなかった。

コア・カリキュラムを作成するにあたっては、他の分野の教育と区別する固有の特性は何かを考えねばならない。その核となるものを明確化し、しっかりと保持しなければならない。歯科衛生学教育も例外ではない。まず、歯科衛生士を医療職と位置付ける。医療系コア・カリキュラムを参考とする場合、医療職として普遍的なものとその職種に固有の特性を区別し、固有の特性の部分を置換すればよいと考えた。医療職として普遍的なものは、人間教育として普遍的なものも含まれる。他の医療職教育と区別する固有の特性とは、歯科衛生に関する専門知識と技能および歯科医学的知識と技能である。しかし、歯科衛生に関する専門知識と技能は、歯科医学教育と区別する固有の特性ではない。歯科医学教育との関係は、歯科医学教育の一部に相当する歯科衛生に関する専門技能を深めたものおよび歯科医療に関する知識の大略と技能の一部と解釈した。歯科医学教育では歯科衛生はほんの一部であり、捉え方も大まかで粗い。大所高所に立った捉え方である。しかし、国民側からは実際に運用してもらわなければ何もならないわけである。きめ細かな技能を修得するという意味において歯科医学教育と区別する固有の特性があると考え。また、歯科医学教育と区別する固有の特性として介護や歯科衛生過程の知識と技能が挙げられる。

以上の考えのもとに平成24年3月27日に全国歯科衛生士教育協議会は「歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—」を作成した。その後、平成29年3月には改訂された「平成29年版 歯科衛生士国家試験出題基準」が出され、老化や加齢および口腔機能に関する事項の項目が増加し、「災害時の歯科保健」と「国際歯科保健」等が新設されたことから、平成30年には、各分野に上記の新しい項目を加え、新規に「全身管理と周術期の口腔保健管理」を追加するとともに、専門分野の『歯科衛生士概論』を『歯科衛生学総論（歯科衛生士概論）』に変更し、臨床歯科医学のすべての項目の一般目標の文頭に「歯科衛生業務を行うために」という文言を入れた「2018

年度改訂版「歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—」を作成した。

今回、全国歯科衛生士教育協議会が改訂した「2022年度 歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—」は、令和4年3月に改訂された「令和4年版歯科衛生士国家試験出題基準」が出されたことと、体系化された「歯科衛生学」に基づいた教育項目や用語を採用した新しい教科書「歯科衛生学シリーズ」を発刊したことが背景にある。新しい出題基準の変更点としては、下記の項目があげられる。

1. 「口腔機能管理」の項目が「歯科保健指導論」から「歯科診療補助論」へ全面的に移行
2. 「口腔機能低下症」の位置付け（小項目）
3. 「口腔機能発達不全症」の明記（備考）
4. 「ハイリスクアプローチ」と「ポピュレーションアプローチ」の明記（小項目）
5. 「ソーシャルキャピタル」の明記（小項目）
6. 「ライフステージに応じたフッ化物応用」が「歯科予防処置論」に位置づけ（小項目）

この度の改訂では、上記の各項目について、記載位置や用語の明記に配慮し、歯科衛生学の確立と歯科衛生業務の拡大を意識した内容になっている。

歯科衛生士養成機関は、2022年4月現在、176校中4年制大学13校、3年制短期大学は16校、専修学校147校で、85%が専修学校であることから、基本的には専修学校における教育に重点を置いた内容となった。また、「歯科衛生学」という学問分野も体系化を進めてはいるが、確立されているとはいえないのが現状である。今後とも教育課程の進展に応じて充実したものを確立していく必要がある。

B. 歯科衛生学教育コア・カリキュラムの基本理念

生命科学や科学技術を基盤とした医学・歯学の進歩により、歯科衛生学の情報量は著しく増加し、医療分野の専門化と技術の高度化が進んでいる。しかしながら、現行の限られた教育課程の中で、このような膨大な知識や技術等を完全に修得することは不可能である。歯科衛生学教育コア・カリキュラムは、著しく膨大化した歯科衛生学の教育内容を精選し、歯科衛生士としての基本的な資質と能力を養成するために、卒業までに学生が身に付けておくべき必須の実践能力（知識・技能・態度）の到達目標をわかりやすく提示したものである。したがって、教育課程のおよそ3分の2程度をコア・カリキュラムの履修にあてることを想定している。このコア・カリキュラムに示された内容を確実に修得した上で、残りの時間は各学校独自の個性的な学習プログラムを準備することが望まれる。

C. 臨地実習について

学校において学習した歯科衛生業務を保健・医療・福祉の実践と結びつけながら理解を深め実践能力を養うために、歯科臨床と地域保健活動の場を通して歯科衛生士として必要な知識・技能・態度を身につけることを目的とした実践的な教育段階が臨地実習である。この臨地実習は臨床実習と臨地実習に分類される。臨床実習は病院や診療所など歯科医療の場を通して、また、臨地実習は保健所・保健センターや学校、施

設などの地域保健活動の場を経験することによって、歯科衛生士として必要な知識・技能・態度を身につけることを目指している。

さらに、臨地実習は、保健・医療・福祉環境のみならず直接患者や住民と接することにより、患者の全人的理解や医療の倫理観を培うことにもなる重要な教育的役割をもっている。

D. 歯科衛生学教育コア・カリキュラムの表示方法

コア・カリキュラムは、カリキュラムの原則に基づいて、歯科衛生士になるために入学してきた学生への学習目標の提示である。能力を培うことが重要であり、知識と理解の獲得はそのための手段である。また、学生の視点に立った学修の系統性や順次性が大切である。基本的な知識と理解は「何かを説明できる」という形で記述し、基本的な能力は「何かを行うことができる」という形で記述する。学生がわかることばを使い、そして目標を「学生を主語として」表現する。この目標が明確になると、これに到達するための授業が設計される。どのような教員が、どのように関わるかは、授業設計の内容となる。また、目標が明示されると評価方法も決められる。したがって、コア・カリキュラムでは、学習項目をあげて、学習のための「一般目標」と「到達目標」を記載した。

1) 一般目標

一般目標は、その項目における学習目標を包括的な概念的な言葉で表す。学生が「・・・を理解する。・・・を習得する。・・・を学修する。・・・を身につける。」というような表現とした。

2) 到達目標

到達目標は、一般目標に記載された項目について、学習者が具体的にどの程度のレベルまで修得しなければならないか、卒業時までの学習の結果、何をどこまで修得するのかを表した。到達目標には、知識、技能および態度の領域にわけられ、それぞれ固有の言葉で表現する。これはすべて客観的に評価できる観察可能な表現とし、表現をできるだけ単純にした。たとえば、知識では、「・・・を説明できる」を用いるが、そこまで求めないものは「・・・を概説できる」とした。また、技能については、「・・・を実施できる」は、文字どおりある行為などを実施できるレベルを要求し、「・・・を説明できる」となっている行為などは、実施できなくても、内容を理解しているレベルでよいとなる。歯科医師でなければできない行為などは「・・・を説明できる」とした。

また、対人実習が望ましい項目には、「*」をつけた。

E. 歯科衛生士に求められる基本的な資質

カリキュラムの作成にあたっては、各養成校で目標とする歯科衛生士像を考えた上で行っていると思うが、ここに、全国歯科衛生士教育協議会の歯科衛生学教育コア・カリキュラムの作成にあたって、各委員から挙げられた「歯科衛生士に求められる基本的な資質」を掲載する。

○歯科医療の高度化と社会環境の変化に対応することのできる歯科衛生士

- 幅広い見識と豊かな人間性を有する歯科衛生士
- 高い倫理観を持つ歯科衛生士
- 資質向上に寄与することのできる歯科衛生士
- 多職種連携のできる歯科衛生士
- EBMに基づいた科学的な判断のできる歯科衛生士

さらに、3年または4年間学習してきた歯科衛生学の成果を集大成する意味で、講義や演習・実習で学んだことをもとに自分自身で研究テーマを設定し、研究を進め、一定の形式で論文にまとめて発表する「卒業研究」等は歯科衛生学教育の一環として考慮する価値がある。自分自身の知識や経験が整理され、視野の広がりや臨床上の疑問を解くための指針ともなり自分が実践してきた歯科保健・医療・福祉の正当性を論述する方法を身につけることにもなる。日常の身近な課題を見つけ、自分で解決する能力を養う「研究」は歯科衛生士のみならず医療職にとつてのアイデンティティでもあることから、今回の改訂においては研究手法についての学びを新たに立ち上げたところである。

歯科衛生士学校養成所指定規則に定める教育内容修得単位表（抜粋）

歯科衛生士学校養成所指定規則に定める各教育分野は、下記に掲げる事項を修得させることを目的とした教育内容とすることとされている。

教育内容は、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」および「選択必修分野」の4分野で、旧来の時間制から『単位制』に変わり、他の医療・介護職との互換性も可能となった。

教育内容		単位数
基礎分野	科学的思考の基盤	10
	人間と生活	
専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	4
	歯・口腔の構造と機能	5
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	6
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7
専門分野	歯科衛生士概論	2
	臨床歯科医学	8
	歯科予防処置論	8
	歯科保健指導論	7
	歯科診療補助論	9
	臨地実習（臨床実習を含む。）	20
選択必修分野		7
合計		93

基礎分野

歯科衛生学教育コア・カリキュラムにおける基礎分野は、専門基礎分野と専門分野を理解するために身につけておくべき基本的な事項を、カリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインとして提示したものである。項目立てや記載内容は、授業科目名を意味するものではなく、履修の順序を示すものでもない。具体的な授業科目などの設定、教育手法や履修順序などは、各歯科衛生士養成機関が独自の理念や特色に基づいて設定することが望ましい。

A. 科学的思考の基盤

1. 生命現象の科学

一般目標：生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 細胞の構造と機能

- ① 真核細胞の基本的構造と機能を説明できる。
- ② 原核細胞の基本的構造と機能を概説できる。
- ③ 細胞周期と細胞分裂を概説できる。

2) 細胞代謝

- ① 酵素の構造、機能および代謝調節を説明できる。
- ② 細胞呼吸とエネルギー産生を説明できる。

3) 遺伝子と遺伝

- ① 遺伝子および染色体の構造を説明できる。
- ② 減数分裂における染色体の挙動を説明できる。
- ③ デオキシリボ核酸（DNA）の複製と修復の機序を説明できる。
- ④ 転写と翻訳の過程を説明できる。
- ⑤ 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。
- ⑥ 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。

4) 化学反応と化合物

- ① 化学反応を概説できる。
- ② 有機化合物の特徴を説明できる。
- ③ 無機化合物の特徴を説明できる。

5) 生命を構成する基本物質

- ① アミノ酸とタンパク質の基本的な構造、機能および代謝を説明できる。
- ② 糖質の基本的な構造、機能および代謝を説明できる。
- ③ 脂質の基本的な構造、機能および代謝を説明できる。
- ④ 核酸の構造と機能を説明できる。

B. 人間と生活

1. 生命倫理・医の倫理

一般目標：倫理問題に配慮して保健・医療・福祉とこれらに関連する研究を行うために、生命と保健・医療・福祉に関わる倫理の重要性を理解する。

到達目標

- ① 生命の尊厳を説明できる。
- ② 保健・医療・福祉およびこれらに関連する研究や情報に関わる倫理的問題を説明できる。
- ③ 生命倫理・医の倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
- ④ 医の倫理に関する規範を概説できる。
- ⑤ 患者の権利を説明できる。
- ⑥ 終末期医療に関わる患者の自己決定権を概説できる。
- ⑦ インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンおよびEBMを説明できる。

2. 外国語

一般目標：歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。

到達目標

1) 読む

- ① 易しい外国語で書かれた文章を読んで内容を説明できる。
- ② 歯科衛生学に関連する外国語の専門用語のうち代表的なものを列挙できる。

2) 書く

- ① 短い日本語を文法にかなった外国語に訳すことができる。
- ② 自己紹介文や手紙文などを外国語で書くことができる。
- ③ 自然科学各分野における基本的単位や数値および現象の外国語表現を列挙できる。

3) 聞く・話す

- ① 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。
- ② 外国語による基本的な日常会話ができる。

3. 情報リテラシー

一般目標：情報の授受に効果的なコンピューターの利用法を理解し必要なデータや情報を有効活用するために、インターネットを利用した情報の収集や開示などに関する基本的知識・技能・態度を習得する。

到達目標

- ① コンピューターを構成する基本的装置を列挙できる。
- ② ワードプロソフトや表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトを用いることができる。
- ③ ソフトウェア使用上のルールとマナーを説明できる。
- ④ 電子メールおよび添付ファイルの送信と受信および転送ができる。
- ⑤ インターネットのブラウザ検索ソフトを用いてホームページを閲覧できる。
- ⑥ インターネットを利用した授業に参加できる。
- ⑦ ネットワークセキュリティーと使用上のマナーを概説できる。

4. プレゼンテーション

一般目標：必要な情報や意思の伝達を行い集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションの基本的知識と技能および態度を習得する。

到達目標

- ① 課題に対する自分の意見を決められた時間内と字数で発表できる。
- ② グループディスカッションで得られた意見を統合して発表できる。
- ③ 質問に対して的確な応答ができる。
- ④ 他者のプレゼンテーションの優れた点と改良点を指摘できる。
- ⑤ 効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。

5. 人の行動と心理

一般目標：良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。

到達目標

- ① 行動と知覚・学習・記憶・知能・感情・思考およびパーソナリティとの関係を概説できる。

- ② 動機づけを概説できる。
- ③ 欲求とフラストレーション・葛藤の関連を概説できる。
- ④ 人生や日常生活におけるストレスを概説できる。
- ⑤ こころの健康に対する要因と支援方法を概説できる。
- ⑥ ライフサイクルにおけるこころの発達の特徴と要因を概説できる。
- ⑦ パーソナリティの特徴を概説できる。
- ⑧ 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる。
- ⑨ 文化や慣習によるコミュニケーション方法を列挙できる。
- ⑩ 話し手と聞き手の役割を理解し、適切なコミュニケーションができる。
- ⑪ 対人関係にかかわる心理的要因と行動を概説できる。
- ⑫ 知能の経年的変化を概説できる。
- ⑬ 集団における人間関係を概説できる。

専門基礎分野

A. 人体の構造と機能

1. 人体の構造

一般目標：人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、組織・発生に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 身体の部位と方向用語

- ① 身体の部位と区分を解剖学的な名称で表現できる。
- ② 身体の方向用語を用いることができる。
- ③ 体位を含む姿勢を列挙できる。

2) 細胞・組織

- ① 細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能を説明できる。
- ② 細胞の増殖と分化の機序を概説できる。
- ③ 細胞死の種類と機序を概説できる。
- ④ 上皮組織の形態、機能および分布を説明できる。
- ⑤ 腺の構造と分泌機構を説明できる。
- ⑥ 支持（結合）組織を分類し、構成する細胞と細胞間質を説明できる。
- ⑦ 結合組織を分類し、組織構造を説明できる。
- ⑧ 軟骨を分類し、組織構造を説明できる。
- ⑨ 筋組織の構造と機能を説明できる。
- ⑩ 神経組織の構造と機能を説明できる。

3) 人体の発生

- ① 核酸、染色体、遺伝子およびゲノムを概説できる。
- ② 受精と着床の過程を説明できる。
- ③ 胚葉の形成を概説できる。
- ④ 胎児の発育を概説できる。

4) 器官と器官系の構造と機能

(1) 循環器系と血液

- ① 動脈、静脈および毛細血管の構造と役割を説明できる。
- ② 肺循環と体循環を説明できる。
- ③ リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる。

- ④ 心臓の構造と機能を概説できる（心筋の特徴、刺激伝導系および心電図を含む）。
- ⑤ 血圧の調節機構を概説できる。
- ⑥ 血液の構成要素と機能を説明できる。
- ⑦ 血液型と輸血を概説できる。
- ⑧ 止血、線溶系および出血傾向を概説できる。
- ⑨ 造血器官を概説できる。

(2) 呼吸器系

- ① 呼吸器の構造と機能を概説できる。
- ② 換気、ガス交換および血液ガスの運搬を概説できる。
- ③ 呼吸の調節を概説できる。

(3) 運動器系

- ① 骨の基本構造と連結様式を概説できる。
- ② 骨の形成・吸収・改造現象（リモデリング）を概説できる。
- ③ 筋の種類と特徴を説明できる。
- ④ 骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる。

(4) 神経系

- ① 神経系の概略を説明できる（ニューロンを含む）。
- ② 中枢神経系の基本構造と機能を概説できる。
- ③ 末梢神経系の分類、基本構造、機能および各神経の特徴を説明できる。
- ④ 興奮の伝導を概説できる（シナプス伝達を含む）。
- ⑤ 反射と随意運動を概説できる。

(5) 感覚器系

- ① 感覚器の構造と機能を概説できる。
- ② 体性感覚、内臓感覚および特殊感覚を説明できる。

(6) 消化器系

- ① 消化器の基本構造と機能を概説できる（食道・肝臓・胆嚢・膵臓を含む）。
- ② 胃における消化を概説できる。
- ③ 腸における消化と吸収を概説できる。
- ④ 排便の仕組みを概説できる。

(7) 泌尿器系

- ① 泌尿器系の構造を概説できる。
- ② 尿の生成と体液の調節を概説できる。
- ③ 排尿の仕組みを概説できる。

(8) 内分泌系

- ① 内分泌器の基本構造とホルモンを概説できる。
- ② ホルモンの働きを概説できる。

(9) 生殖器系

- ① 生殖器系を概説できる。
- ② 生殖機能を概説できる。

(10) 体表と体温

- ① 皮膚と粘膜、および付属器を概説できる。
- ② 体温の調節と変動を概説できる。

(11) 加齢・老化

- ① 加齢と老化を説明できる。
- ② 人体の老化の特性と機序を説明できる。
- ③ 老化に伴う細胞、組織、器官および個体の形態的・機能的な変化を概説できる。

2. 人体の代謝と機能

一般目標：人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体の構成成分、代謝および機能に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 人体の構成成分

- ① 細胞の機能を説明できる。
- ② 人体の構成成分の構造と種類を説明できる。

2) 人体における化学反応

- ① 栄養素の種類および作用を説明できる。
- ② 栄養素の消化と吸収を説明できる。
- ③ 酸素の運搬と二酸化炭素の排出を説明できる。

3) エネルギーの代謝

- ① エネルギー代謝を説明できる。

4) 物質の代謝

- ① タンパク質の代謝を説明できる。
- ② 糖質の代謝を説明できる。
- ③ 脂質の代謝を説明できる。
- ④ タンパク質が合成される過程を説明できる。

5) 酵素の種類と作用

- ① 主要な酵素の種類と作用を説明できる。

6) 生体における恒常性の維持

- ① 生体の恒常性（ホメオスタシス）を、血液の緩衝能と血糖値の調節で概説できる。
- ② 恒常性を保つ仕組みのホルモン系と自律神経系を概説できる。

3. 栄養・食生活

一般目標：人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 栄養と健康

- ① 栄養・栄養素の働きについて概説できる。
- ② 健康の維持と増進に必要な栄養を説明できる。
- ③ 現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を列挙できる。
- ④ 栄養素の種類とその消化と吸収の基本を説明できる。

2) 食事摂取基準

- ① 食事摂取基準を説明できる。
- ② エネルギー必要量を説明できる。
- ③ 脂肪エネルギー比率を説明できる。
- ④ 基礎代謝を説明できる。

3) 栄養素の働き

- ① 糖質、タンパク質および脂質の生体での役割を概説できる。
- ② ビタミンの種類と働きを概説できる。

- ③ ミネラル（無機質）の種類と働きを概説できる。
- ④ 水の生体での役割を概説できる。
- ⑤ 食物繊維の生体での役割を概説できる。

4) 食品と健康

- ① 食品の成分と分類および食品成分表を説明できる。
- ② 食品群の種類と分類を説明できる。
- ③ 保健機能食品を説明できる。
- ④ 食品添加物を説明できる。
- ⑤ 食品の物性とその働きを説明できる。

5) 食生活と健康

- ① 食生活と健康との関連を概説できる。
- ② 食生活と口腔の健康との関連を説明できる。
- ③ 国民健康・栄養調査を概説できる。
- ④ 食育と食育基本法を概説できる。
- ⑤ 食生活指針および食事バランスガイドを説明できる。
- ⑥ ライフステージ別の食生活の特徴を説明できる。
- ⑦ 低栄養と健康との関連を概説できる。

B. 歯・口腔の構造と機能

1. 歯・口腔の解剖・組織・生理

一般目標：顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 頭頸部の基本的な構造と機能

- ① 顔面ならびに口腔の範囲を説明できる。
- ② 顔面ならびに口腔の各部位の名称を列挙できる。
- ③ 顔面ならびに口腔の発生を概説できる。
- ④ 顔面ならびに口腔の加齢変化を概説できる。
- ⑤ 顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる。
- ⑥ 頭頸部の筋の構成と機能を概説できる。
- ⑦ 頭頸部の脈管を概説できる。
- ⑧ 頭頸部の神経を概説できる。

- ⑨ 三叉神経と顔面神経の走行と線維構成を概説できる。
- ⑩ 咽頭の構造を説明できる。
- ⑪ 喉頭の構造を説明できる。
- ⑫ 顎関節の構造と機能を概説できる。
- ⑬ 鼻腔と副鼻腔の構造を概説できる。
- ⑭ 下顎の運動を概説できる。
- ⑮ 咀嚼の意義を説明できる。
- ⑯ 摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。
- ⑰ 口腔粘膜の分類と特徴を部位ごとに説明できる。
- ⑱ 舌の構造と機能を説明できる。
- ⑲ 味覚器の構造と味覚を説明できる。
- ⑳ 唾液腺の位置と構造を説明できる。
- ㉑ 唾液の性状と役割を説明できる。
- ㉒ 吸啜と嘔吐を概説できる。
- ㉓ 発声・構音器官としての口腔を概説できる。

2) 歯と歯周組織の構造と機能

- ① 歯と歯周組織の発生を概説できる。
- ② 歯の萌出と交換を概説できる。
- ③ 歯種別の形態と特徴を説明できる（歯式を含む）。
- ④ 永久歯と比較した乳歯の特徴が説明できる。
- ⑤ 歯の硬組織の組織学的構造と機能を説明できる。
- ⑥ 歯髄の組織学的構造と機能を説明できる。
- ⑦ 歯周組織の組織学的構造と機能を説明できる。
- ⑧ 歯列と咬合を概説できる。
- ⑨ 歯と口腔粘膜の感覚を概説できる。
- ⑩ 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。

2. 口腔の代謝と機能

一般目標：口腔における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、口腔における物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 歯と歯周組織の生化学

- ① 結合組織の組成と機能を説明できる。
- ② 主な細胞外マトリックスの構造と機能、合成と分解を説明できる。

- ③ ヒドロキシアパタイトなどを含む歯の無機成分を説明できる。
- ④ 歯の有機成分を説明できる。

2) 硬組織の生化学

- ① 血清中のカルシウムとリン酸の濃度を説明できる。
- ② 歯と骨の石灰化の仕組みを概説できる。
- ③ 血清カルシウム調節を説明できる。
- ④ 歯の脱灰と再石灰化を説明できる。

3) 唾液の生化学

- ① 唾液中の無機質と有機質の種類を列挙できる。
- ② 唾液中の無機質の作用を説明できる。
- ③ 唾液中の有機質の作用を説明できる。

C. 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進

1. 病因と病態

一般目標：口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 細胞・組織の傷害

- ① 細胞・組織の変性、萎縮、細胞死を概説できる。
- ② 壊死（ネクロシス）とアポトーシスの違いを説明できる。
- ③ 代謝障害を概説できる。

2) 増殖と修復

- ① 肥大、増生、化生、再生を概説できる。
- ② 創傷の治癒過程を説明できる。
- ③ 異物の処理を説明できる（器質化を含む）。
- ④ 肉芽組織とその構成成分を説明できる。

3) 循環障害

- ① 虚血、充血、うっ血の違いを説明できる。
- ② 出血の原因、種類、転帰を説明できる。
- ③ 血栓、塞栓の形成機序、転帰を概説できる。
- ④ 梗塞の成因、転帰を概説できる。

- ⑤ 浮腫の原因、症状、転帰を説明できる。
- ⑥ 一次性ショックと二次性ショックの違いを説明できる。

4) 炎症

- ① 炎症の定義を説明できる。
- ② 炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。
- ③ 炎症を分類できる。
- ④ 滲出性炎とその経時的変化を概説できる。
- ⑤ 増殖性炎、肉芽腫性炎とその経時的変化を概説できる。
- ⑥ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の違いを説明できる。

5) 免疫異常と移植

- ① 免疫異常を概説できる。
- ② 移植免疫を概説できる。

6) 腫瘍

- ① 腫瘍の定義を説明できる。
- ② 腫瘍の病因と進展を概説できる。
- ③ 腫瘍の局所での増殖、浸潤、再発、転移を概説できる。
- ④ 腫瘍を分類できる。
- ⑤ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる。
- ⑥ 前癌病変を概説できる。

7) 口腔領域の疾患

- ① 歯の発育障害の種類と病態を概説できる。
- ② 歯の損傷と色の異常を概説できる。
- ③ デンタルプラーク、歯石の形成とその為害性を説明できる。
- ④ う蝕の病因と病態を説明できる。
- ⑤ う蝕を組織学的に分類し、その特徴を説明できる。
- ⑥ 酸蝕症の病因や病態を説明できる。
- ⑦ 歯頸部知覚過敏症の病因や病態を説明できる。
- ⑧ 歯髄疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑨ 歯髄炎を分類し、その特徴を説明できる。
- ⑩ 根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑪ 根尖性歯周炎を分類し、その特徴を説明できる。

- ⑫ 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑬ 歯周疾患を分類し、その特徴を説明できる。
- ⑭ 抜歯創の治癒過程を説明できる。
- ⑮ 口腔粘膜疾患の種類と特徴を概説できる。
- ⑯ 口腔領域の嚢胞を概説できる（歯源性嚢胞を含む）。
- ⑰ 口腔領域の腫瘍を概説できる（歯源性腫瘍を含む）。
- ⑱ 唾液腺疾患を概説できる。

2. 感染と免疫

一般目標：口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 感染

- ① 感染と発症を説明できる。
- ② 微生物の感染機構と病原性を概説できる。
- ③ 宿主の抵抗性を概説できる。
- ④ 感染の種類と経路をあげ、概説できる。
- ⑤ 細菌、ウイルスその他微生物の形態学的特徴と基本的性状を概説できる（プリオンを含む）。
- ⑥ 滅菌・消毒の意義と原理を説明できる。
- ⑦ 院内感染の原因と予防法を説明できる。
- ⑧ 化学療法の目的と原理を説明できる。
- ⑨ 微生物の培養と観察法を概説できる。

2) 免疫

- ① 自然免疫と獲得免疫を説明できる。
- ② 液性免疫と細胞性免疫を説明できる。
- ③ 免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。
- ④ 抗原抗体反応を説明できる。
- ⑤ ワクチンを説明できる。
- ⑥ アレルギーを概説できる。

3) 口腔微生物

- ① 微生物と口腔環境の関わりを説明できる。
- ② 口腔常在微生物を概説できる。
- ③ バイオフィームとしてのデンタルプラーク形成機序を説明できる。
- ④ 口腔バイオフィーム感染症を概説できる。
- ⑤ う蝕原因菌を概説できる。
- ⑥ 歯周病原菌を概説できる。

3. 疾病の回復を促進する薬物

一般目標：薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬物に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 医薬品等の分類

- ① 医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法）を概説できる。
- ② 日本薬局方を概説できる。
- ③ 医薬品（和漢薬を含む）、医薬部外品、化粧品のカテゴリーを説明できる。
- ④ 毒薬、劇薬および麻薬などの表示と保管を説明できる。

2) 医療と薬物

- ① 薬物療法（原因療法、対症療法）を説明できる。
- ② 薬理作用の基本形式と分類を説明できる。

3) 身体と薬物

- ① 薬物の作用機序を説明できる。
- ② 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。
- ③ 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。
- ④ 薬理作用を規定する要因（用量、作用、感受性）を説明できる。
- ⑤ 薬物の併用による相互作用（協力作用、拮抗作用）を説明できる。
- ⑥ 薬物の連用の影響（薬物耐性、蓄積および薬物依存）を説明できる。
- ⑦ 妊産婦・小児・高齢者への薬物投与の特徴を説明できる。
- ⑧ 薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。
- ⑨ 医療安全管理と対策を概説できる。

4) 薬物の取り扱い

- ① 処方せん（箋）の記載事項を概説できる。
- ② 薬物の保存方法を説明できる。
- ③ 薬物の剤形を説明できる。

5) 中枢神経系と薬物

- ① 主な中枢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

6) 末梢神経系と薬物

- ① 主な末梢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② 主な局所麻酔薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

7) 痛みと薬物

- ① 主な鎮痛薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

8) 抗炎症薬

- ① 炎症のメカニズムを概説できる。
- ② 主な抗炎症薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

9) 呼吸器・消化器・循環器系と薬物

- ① 呼吸器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② 消化器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ③ 循環器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

10) 血液と薬物

- ① 血液凝固の過程を概説できる。
- ② 主な止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

11) 感染症と薬物

- ① 感染症を概説できる。
- ② 主な抗感染症薬と消毒薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

12) 免疫と薬物

- ① 主な免疫抑制薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

13) 代謝性疾患と薬物

- ① 糖尿病治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② 骨粗鬆症治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ③ 脂質異常症治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

14) 悪性腫瘍と薬物

- ① 主な抗悪性腫瘍薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

15) 歯・歯髄疾患と薬物

- ① 歯・歯髄疾患の治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

16) 歯周疾患と薬物

- ① 歯周治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
- ② 歯周疾患の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

17) 服薬指導

- ① 服薬に関する一般的事項を説明できる。
- ② 対象者別の服薬指導を説明できる。

D. 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

1. 健康を左右する環境

一般目標：個人と集団に対する健康障害を予防するために、健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 総論

- ① 健康の定義と国民の権利を説明できる。
- ② 健康づくりの理念を説明できる。
- ③ 社会環境（QOL・ノーマライゼーション・国際生活機能分類（ICF）・ソーシャルキャピタル）の理念を説明できる。
- ④ 第一次予防、第二次予防および第三次予防を説明できる。
- ⑤ 健康とライフスタイルの関係を説明できる。

2) 疫学

- ① 疫学の定義を説明できる。

- ② 疾病や異常の発生要因（因子）を列挙できる。
- ③ 健康・疾病・異常・流行を表す指標を列挙できる。
- ④ 疫学研究の方法を説明できる。
- ⑤ 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる。
- ⑥ スクリーニング検査の概念と指標を説明できる。

3) 人口

- ① わが国と世界における人口の現状と推移を概説できる。
- ② 人口統計における静態統計と動態統計を説明できる。
- ③ 人口構造を人口ピラミッドや各種指標を用いて説明できる。
- ④ 生命表の概要を理解して日本人の平均寿命の動向を説明できる。

4) 健康と環境

- ① 人間と環境の関係を説明できる。
- ② 健康と環境の関係を説明できる。
- ③ 地球環境の変化とその対応を説明できる。
- ④ 公害問題とその原因物質を列挙できる。
- ⑤ 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。
- ⑥ 持続可能な開発目標（SDG s）と健康の関係を概説できる。

5) 感染症

- ① 感染症の概念と感染成立の三要因を説明できる。
- ② 感染予防・流行防止の概念と対策を説明できる。
- ③ 感染症の分類とその内容を説明できる。
- ④ 主な感染症とその動向を説明できる。

6) 食品と健康

- ① わが国の食中毒の発生状況を説明できる。
- ② 食中毒の分類と特徴を説明できる。
- ③ 食品の安全性確保のための方策を列挙できる。
- ④ 食に関するわが国の政策を概説できる。

2. 歯・口腔の健康と予防

一般目標：歯科疾患を予防するために、歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 総論

- ① 口腔の健康の定義を説明できる。
- ② 口腔と全身の健康の関係を説明できる。
- ③ 歯・口腔の健康を保持・増進する手段を概説できる。
- ④ 歯・口腔の形成および発育・発達とその異常と変化を説明できる。
- ⑤ 歯・口腔の機能を説明できる。
- ⑥ 唾液の作用を説明できる。
- ⑦ 歯・口腔の付着物と沈着物を説明できる。

2) 口腔清掃

- ① 口腔清掃の意義を説明できる。
- ② 口腔清掃法の種類を列挙できる。
- ③ 口腔清掃用具の種類と特徴を説明できる。
- ④ 不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を列挙できる。
- ⑤ 歯磨剤の種類と組成およびその配合目的を説明できる。
- ⑥ 洗口剤の種類と組成およびその配合目的を説明できる。

3) 歯科疾患の疫学

- ① う蝕の疫学的特性を概説できる。
- ② 歯周病の疫学的特性を概説できる。
- ③ その他の歯科疾患の疫学的特性を概説できる。

4) う蝕の予防

- ① う蝕の発生と進行のメカニズムを説明できる。
- ② う蝕の発生要因（宿主・口腔細菌叢・食事性基質）を説明できる。
- ③ う蝕の社会経済的要因について概説できる。
- ④ う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。
- ⑤ リスクに応じたう蝕予防法を列挙できる。
- ⑥ う蝕の第一次予防と第二次予防および第三次予防を説明できる。

5) フッ化物によるう蝕予防

- ① 人間生態系におけるフッ化物の位置づけを説明できる。
- ② 生体におけるフッ化物の代謝を説明できる。
- ③ フッ化物の毒性を理解し、緊急時の対処法を説明できる。

- ④ フッ化物応用によるう蝕予防法を列挙できる。
- ⑤ フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明できる。

6) 歯周病の予防

- ① 歯周病の種類と発生のメカニズムを説明できる。
- ② 歯周病の炎症の広がりと症状を説明できる。
- ③ 歯周病のリスクファクターを列挙できる。
- ④ 歯周病と全身の関係を説明できる。
- ⑤ 歯周病予防の第一次予防と第二次予防および第三次予防を説明できる。

7) その他の疾患・異常の予防

- ① 口内炎の要因と予防を説明できる。
- ② 口腔癌の要因と予防を説明できる。
- ③ 不正咬合の要因と予防を説明できる。
- ④ 顎関節症の要因と予防を説明できる。
- ⑤ 歯の着色・変色の要因と予防を説明できる。
- ⑥ 口臭の要因と予防を説明できる。
- ⑦ 口腔乾燥症の要因と予防を説明できる。
- ⑧ 歯の損耗 (Tooth wear) の要因と予防を説明できる。
- ⑨ 歯・口腔の外傷の要因と予防を説明できる。
- ⑩ 口腔機能低下症の要因と予防を説明できる。

3. 健康に関わる地域の役割

一般目標：地域集団に対する疾病を予防するために、生活と健康に関わる社会の仕組みと、地域社会における保健対策を理解し、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 地域保健・公衆衛生総論

- ① 地域保健の意義と概念を概説できる。
- ② ヘルスプロモーションやハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチなどの地域保健活動の概念を概説できる。
- ③ 地域保健を担う組織とその役割を概説できる。
- ④ 地域保健活動の基本的な進め方を概説できる。
- ⑤ 口腔保健の地域特性を説明できる。
- ⑥ 地域口腔保健活動の進め方を説明できる。

- ⑦ わが国の保健医療計画を説明できる。
- ⑧ わが国の健康づくり対策の変遷と現状を説明できる。
- ⑨ わが国の口腔の健康づくり対策の変遷と現状を説明できる。

2) 母子保健

- ① 母子保健の意義を説明できる。
- ② 母子保健の対象者を列挙できる。
- ③ わが国の母子歯科保健活動と対策を概説できる。
- ④ 母子健康手帳の口腔保健関係欄を説明できる。
- ⑤ 1歳6か月児・3歳児歯科健康診査と保健指導の内容を説明できる。
- ⑥ 妊産婦・乳幼児歯科健康診査と保健指導の内容を説明できる。

3) 学校保健

- ① 学校保健の意義を説明できる。
- ② 学校保健の対象者を列挙できる。
- ③ 学校保健統計調査の結果を説明できる。
- ④ 学校保健を担う組織とその役割を概説できる。
- ⑤ 学校保健の領域構造を概説できる。
- ⑥ 学校における健康診断を概説できる。
- ⑦ 学校歯科健康診断の検査と、事後措置の内容を説明できる。
- ⑧ わが国の学校保健安全活動と対策について説明できる。

4) 成人保健

- ① 成人保健の意義を説明できる。
- ② 成人保健活動と対策を説明できる。

5) 産業保健

- ① 産業保健の意義を説明できる。
- ② 職業性疾病の要因を列挙できる。
- ③ 産業保健における安全衛生管理体制を説明できる。
- ④ 産業保健活動と対策を説明できる。
- ⑤ 職域における健康診断の種類と事後措置を説明できる。
- ⑥ 職業性歯科疾病と特殊健康診断を説明できる。
- ⑦ トータルヘルスプロモーションプラン（THP）を概説できる。

6) 高齢者保健

- ① 高齢者保健の意義を説明できる。
- ② わが国の高齢者の保健福祉活動と対策を説明できる。
- ③ 介護保険制度を概説できる。
- ④ 介護保険制度と歯科衛生士の関わりを説明できる。
- ⑤ 要介護者の保健福祉対策（新オレンジプランを含む）を説明できる。
- ⑥ 地域包括ケアシステム（地域における保健・医療・福祉・介護の連携）を概説できる。

7) 障害者保健

- ① 障害者保健の意義を説明できる。
- ② 障害者の歯科保健の問題を概説できる。
- ③ わが国の障害者保健福祉活動と対策を説明できる。

8) 精神保健

- ① 精神保健の意義を説明できる。
- ② 精神障害者の歯科保健の問題を概説できる。
- ③ わが国の精神保健活動と対策を概説できる。

9) 災害時の保健医療活動

- ① 大規模災害時の保健医療対策を概説できる。
- ② 被災地での歯科保健活動を概説できる。

10) 国際保健

- ① 国際保健を担う国際機関の種類と活動を概説できる。
- ② 国際協力と国際交流を説明できる。
- ③ 世界の健康水準と口腔保健の現状を概説できる。
- ④ 世界の口腔保健従事者を説明できる。
- ⑤ 世界およびわが国の歯科保健医療活動を概説できる。
- ⑥ 開発途上国への歯科保健医療協力を概説できる。

4. 歯科衛生士と法律・制度

一般目標：歯科衛生を行うために、日本の保健・医療・福祉の制度と医事法制を理解し、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。

1) 医療と社会環境

- ① 日本の医療制度を概説できる。
- ② 国民医療費など医療経済の動向を説明できる。
- ③ 医療施設・医療従事者の現況を説明できる。
- ④ 歯科衛生士・歯科医師・歯科技工士の業務を説明できる。

2) 歯科衛生士と法律

- ① 歯科衛生士法の成り立ちと目的を説明できる。
- ② 歯科衛生士法による歯科衛生士業務を説明できる。
- ③ 歯科衛生士法による歯科衛生士の義務・責務を説明できる。
- ⑤ 歯科医師法および歯科技工士法による歯科医師ならびに歯科技工士の義務と責務を説明できる。
- ⑥ 医療法の成り立ちと目的を説明できる。
- ⑦ 医療法による遵守事項を説明できる。

3) 医療関係職種

- ① 歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を列挙できる。
- ② 保健師助産師看護師法の概要と診療の補助を概説できる。
- ③ 診療放射線技師と言語聴覚士の業務を概説できる。
- ④ 医師法と薬剤師法を概説できる。

4) その他の関係法規

- ① 薬事に関する衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。
- ② 地域保健に関する衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。

5) 社会保障と社会福祉

- ① わが国の社会保障制度の種類を列挙できる。
- ② 社会保険の種類とその特徴を説明できる。
- ③ 医療保険の種類とその仕組みを説明できる。
- ④ 介護保険制度の仕組みを概説できる。
- ⑤ わが国の社会福祉制度を説明できる。

5. 保健情報と衛生統計

一般目標：個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。

到達目標

1) 保健情報と保健統計

- ① データと情報の違いを説明できる。
- ② 根拠に基づいた医療 (evidence-based medicine<EBM>) を説明できる。
- ③ 国家保健統計 (歯科疾患実態調査等) を説明できる。

2) 歯科疾患の疫学

- ① う蝕の疫学を概説できる。
- ② 歯周病の疫学を概説できる。
- ③ その他の歯科疾患の疫学を概説できる。

3) 歯科疾患の指標

- ① 歯科疾患の指標を列挙できる。
- ② う蝕の指標を説明できる。
- ③ 歯周病の指標を説明できる。
- ④ 口腔清掃状態の指標を説明できる。
- ⑤ 口腔機能の指標を説明できる。
- ⑥ 歯のフッ素症の指標を説明できる。
- ⑦ 不正咬合の指標を説明できる。

4) 保健情報の分析手順

- ① 保健情報の収集方法を説明できる。
- ② 保健調査の基本を説明できる。
- ③ 質問紙作成法の基本を説明できる。
- ④ 母集団と標本を説明できる。
- ⑤ 標本抽出法を説明できる。

5) 保健統計の方法

- ① データの特徴を説明できる。
- ② データの代表値や散布度を選択できる。
- ③ データの分析法を選択できる。
- ④ 交絡因子を説明できる。

6) 保健情報の分析演習

- ① 検定の流れを説明できる。
- ② 標本平均値の差の検定を説明できる。

- ③ カイ二乗検定を説明できる。
- ④ 図表の種類と特徴を列挙できる。
- ⑤ 図表作成の基本事項を列挙できる。
- ⑥ 図表を作成できる。

7) 情報の保護と倫理

- ① 情報の特性を概説できる。
- ② 情報を得る手順を列挙できる。
- ③ 個人情報の扱い（個人情報保護）を説明できる。
- ④ インターネットと情報モラルを概説できる。

専門分野

A. 歯科衛生学総論

1. 歯科衛生学総論

一般目標：人びとの健康づくりを支援し、口腔健康管理を担う専門職としての基本的態度を理解し、関連する知識・技術・態度を身につけるために論理的な思考の基礎を習得する。

到達目標

- ① 歯科衛生学を概説できる。
- ② 口腔健康管理の意義を説明できる。
- ③ 歯科衛生士法を説明できる。
- ④ クリティカルシンキングの意義を説明できる。
- ⑤ 健康づくりを支援する歯科衛生士の役割を説明できる。
- ⑥ 患者の権利と医療の責務を説明できる。
- ⑦ インフォームド・コンセントを説明できる。
- ⑧ 歯科衛生士の倫理綱領を概説できる。
- ⑨ 歯科衛生士の専門性（プロフェッショナリズム）を説明できる。
- ⑩ コミュニケーションスキルの必要性を説明できる。

2. 歯科衛生実践の進め方

一般目標：対象者の歯科衛生ニーズにあった支援をするために、論理的な思考を基に、問題を明確化し解決するための過程を把握し、歯科衛生実践に必要な医療安全管理の概要を理解する。

到達目標

1) 歯科衛生過程

- ① 歯科衛生実践を進めるための理論を説明できる。
- ② 歯科衛生過程の構成要素とその意味を説明できる。
- ③ 歯科衛生アセスメントを説明できる。
- ④ 歯科衛生診断を説明できる。
- ⑤ 歯科衛生計画を説明できる。
- ⑥ 歯科衛生介入を説明できる。
- ⑦ 歯科衛生過程における評価を説明できる。
- ⑧ 歯科衛生業務記録と情報提供文書の意義を説明できる。

2) 医療安全管理

- ① 医療事故の発生要因と防止策を説明できる。
- ② 感染予防対策の必要性和方略を説明できる。
- ③ 医療安全管理における歯科衛生士の役割を説明できる。

3) 保健・医療・福祉におけるチームアプローチ

- ① チーム医療の定義と必要性を説明できる。
- ② 保健・医療・福祉分野の専門職と多職種連携の必要性を説明できる。
- ③ 地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を説明できる。

B. 臨床歯科医学

1. 臨床歯科総論

一般目標：患者の全身状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生業務に必要な検査（口腔内検査、顎口腔機能検査、画像検査）および全身の一般臨床検査の意義と関連を理解する。

1) 全身疾患と歯科治療

到達目標

- ① 医療情報収集の意義を説明できる。
- ② 医療面接の方法および照会状の目的を説明できる。
- ③ 歯科治療にあたり留意すべき主な全身疾患と偶発症の予防を説明できる。
- ④ バイタルサインのモニタリングを説明できる。

2) 口腔内検査・顎口腔機能検査

到達目標

- ① 歯・歯髄・歯周組織の検査に必要な器具・検査の意義を説明できる。
- ② 歯列・咬合、下顎運動、筋機能、咀嚼機能検査の意義を説明できる。
- ③ 舌運動・舌圧検査、唾液検査、摂食嚥下機能検査の意義を説明できる。
- ④ 構音機能検査、味覚検査、口臭検査、微生物学的検査、病理学的検査の意義を説明できる。

3) 画像検査

到達目標

- ① 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。
- ② エックス線画像の形成原理を概説できる。
- ③ 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる。

- ④ 口内法ならびにパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。
- ⑤ 口内法エックス線写真とパノラマエックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる。
- ⑥ う蝕と歯周病および顎骨に生じる病変（嚢胞、腫瘍、炎症等）のエックス線学的所見を概説できる。
- ⑦ 超音波検査、CT（CBCT）およびMRIの原理と特徴を概説できる。
- ⑧ 嚙下造影検査、嚙下内視鏡検査の所見を概説できる。

4) 一般臨床検査

到達目標

- ① 一般臨床検査の目的を説明できる。
- ② 検査の倫理と安全性を説明できる。
- ③ 生体検査および検体検査の種類と意義を説明できる。

2. 歯・歯髄組織の疾患と治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。

到達目標

- ① 歯の硬組織疾患の種類と成因、予防法、処置法を説明できる。
- ② う蝕治療の流れ、また前準備の概要を説明できる。
- ③ 窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。
- ④ 修復処置に使用する器材の概要を説明できる。
- ⑤ 修復法の種類（直接修復・間接修復）と特徴を説明できる。
- ⑥ 歯の切削器械・器具の種類と特徴を説明できる。
- ⑦ 歯の変色の原因と処置法(歯の漂白)を説明できる。
- ⑧ Minimal Intervention Dentistry<MID>の意義を説明できる。
- ⑨ 象牙質知覚過敏症の症状と原因、処置法を説明できる。
- ⑩ 修復処置後の不快事項とメンテナンス、および補修修復について説明できる。
- ⑪ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の成因、分類と症状・検査法を説明できる。
- ⑫ 歯髄の保存療法（覆髄法）を説明できる。
- ⑬ 歯髄の除去療法を説明できる。
- ⑭ 根尖性歯周組織疾患（感染根管）を説明できる。
- ⑮ 根管治療に用いる器材の使用法を説明できる。
- ⑯ 根管充填法を説明できる。
- ⑰ 根未完成歯の処置法を説明できる。

- ⑱ 外科的歯内療法の種類・適応症および処置法を説明できる。
- ⑲ 外傷歯の治療法を説明できる。
- ⑳ 歯内療法における偶発事故とその防止策を説明できる。

3. 歯周組織の疾患と治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。

到達目標

- ① 歯周病の種類と症状を説明できる。
- ② 歯周治療の流れを説明できる。
- ③ 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。
- ④ 歯周基本治療の術式と適応症を説明できる。
- ⑤ 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。
- ⑥ 口腔機能回復治療の概要を説明できる。
- ⑦ 歯周治療後の再評価ができる。
- ⑧ 歯周治療後のメンテナンス（SPT）を説明できる。

4. 咀嚼障害・咬合異常

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。

到達目標

- ① 現在歯や欠損部位の歯列・咬合の位置、下顎運動とその機能および加齢による変化を説明できる。
- ② 補綴装置の種類と適応を説明できる。
- ③ 補綴治療に用いられる器材を説明できる。
- ④ 補綴装置の支持装置と把持装置および維持装置を説明できる。
- ⑤ 義歯の調整・リライニング・リベース・修理を概説できる。
- ⑥ ブリッジの特徴と構成を説明できる。
- ⑦ 支台装置とポンティックの選択と特徴を概説できる。
- ⑧ プロビジョナルレストレーション（テンポラリークラウン・ブリッジ）を概説できる。
- ⑨ 補綴治療の流れを概説できる。
- ⑩ 補綴装置製作のための印象採得に用いる材料と取扱い方を説明できる。
- ⑪ 補綴装置製作のための咬合採得に用いる材料と取扱い方を説明できる。

- ⑫ CAD/CAM システムによる治療の流れを概説できる。
- ⑬ インプラント義歯の特徴と構成を説明できる。
- ⑭ 補綴処置後におけるリコールとメンテナンスの重要性を説明できる。

5. 顎口腔領域の疾患と治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な、顎口腔領域に生じる各種疾患の特徴や症状、診断法および治療法を理解する。

到達目標

- ① 顎口腔領域に生じる各種疾患を分類できる。
- ② 先天異常（口唇・口蓋裂など）と発育異常（顎変形症など）の症状と治療法を概説できる。
- ③ 歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法を概説できる。
- ④ 各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を概説できる。
- ⑤ 歯槽部、顎骨および周囲組織の炎症（歯性感染）の原因、感染経路と症状および治療法を概説できる。
- ⑥ 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法を概説できる。
- ⑦ 顎口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状および治療法を概説できる。
- ⑧ 顎関節疾患（脱臼、顎関節症、顎関節強直症など）の症状と治療法を概説できる。
- ⑨ 唾液腺疾患（唾液腺炎、流行性耳下腺炎、唾石症、唾液腺腫瘍）の症状と治療法を概説できる。
- ⑩ 顎口腔領域の神経疾患（三叉神経痛、三叉神経麻痺、顔面神経麻痺、舌痛症、オーラルディスクネジアなど）の症状を概説できる。
- ⑪ 口腔に症状を現す血液疾患（貧血、白血病、血友病、特発性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固亢進症候群(DIC)など）の特徴を概説できる。
- ⑫ 口腔（歯科）心身症（舌痛症、歯科治療恐怖症など）の特徴を概説できる。
- ⑬ 抜歯・口腔外科小手術（消炎手術、止血処置、歯槽骨整形術、根尖切除術、嚢胞摘出術・嚢胞開窓術、骨折手術、口腔インプラント手術）の手順を説明できる。
- ⑭ 抜歯の適応と禁忌を概説できる。
- ⑮ 抜歯・口腔外科小手術の術中・術後の局所的偶発症および術後の注意を説明できる。
- ⑯ 顎口腔領域の周術期（放射線治療、化学療法を含む）の口腔健康管理を説明できる。

6. 歯科麻酔と全身管理

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な全身管理ならびに局所麻酔、精神鎮静法および全身麻酔を理解する。

到達目標

- ① 局所麻酔の種類と目的ならびに全身的・局所的偶発症を説明できる。
- ② バイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)、意識レベルを説明できる。
- ③ 局所麻酔法と施術時の注意点を説明できる。
- ④ 歯科治療時の全身的偶発症（神経性ショック、過換気症候群、アナフィラキシーショック、低血糖発作、高血圧緊急症、脳血管障害、誤飲・誤嚥）とその対応を説明できる。
- ⑤ 精神鎮静法の適応症と種類を説明できる。
- ⑥ 全身麻酔の適応症と種類を概説できる。

7. 小児の理解と歯科治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。

到達目標

- ① 小児の身体発育と精神発達を説明できる。
- ② 歯列および咬合の発育と口腔機能の発達を説明できる。
- ③ 小児の行動の特徴や情動の変化と歯科的対応について説明できる。
- ④ 乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴と予防法を説明できる。
- ⑤ 小児の歯周病について説明できる。
- ⑥ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる。
- ⑦ 小児の口腔外科的疾患と処置法を説明できる。
- ⑧ 小児の歯の外傷の種類と処置法を説明できる。
- ⑨ 咬合誘導の概念ならびに保隙装置の種類、適応症および留意点を説明できる。
- ⑩ 口腔機能発達不全症の評価法と対応について説明できる。

8. 不正咬合と治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および矯正治療を理解する。

到達目標

- ① 顎顔面および歯・歯列の成長発育とその評価法を説明できる。
- ② 正常咬合の成立条件と種類を説明できる。
- ③ 不正咬合の種類を説明し、その原因を列挙できる。
- ④ 不正咬合による障害を説明できる。
- ⑤ 矯正歯科治療の検査と治療の流れを説明できる。

- ⑥ 矯正力と歯の移動様式および固定、保定について説明できる。
- ⑦ 矯正装置の種類と使用目的を説明できる。
- ⑧ 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。
- ⑨ 矯正治療前、治療中および保定期間における口腔健康管理および口腔筋機能療法を説明できる。

9. 高齢者の理解と歯科治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。

到達目標

- ① 人口の超高齢化による社会環境の変化を説明できる。
- ② 高齢者のための社会保障と保健・医療・福祉を説明できる。
- ③ 全身および口腔の加齢と老化を説明できる。
- ④ サルコペニアとフレイルを説明できる。
- ⑤ 高齢者の生活機能を低下させる全身疾患を説明できる。
- ⑥ 高齢者の歯科治療時に注意すべき全身疾患を説明できる。
- ⑦ 高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる。
- ⑧ 歯科訪問診療を説明できる。
- ⑨ 高齢者の摂食嚥下障害の原因と症状を説明できる。
- ⑩ 口腔機能低下症の評価法とその対応について説明できる。
- ⑪ 高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる。

10. 障害児者の理解と歯科治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。

到達目標

- ① 障害の概念が説明できる。
- ② 障害児者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
- ③ 障害児者の保健・医療・福祉制度を説明できる。
- ④ 障害の種類・歯科的特徴について説明できる。
- ⑤ 障害児者の歯科治療と特殊性について説明できる。
- ⑥ 障害児者の対応と歯科治療に必要な注意点を説明できる。
- ⑦ 障害児者の口腔衛生管理を説明できる。

⑧ 障害児者の摂食嚥下障害と口腔機能管理を説明できる

C. 歯科予防処置論（*は対人実習が望ましい項目）

一般目標：口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。

1. 総論

一般目標：歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要について学ぶ。

到達目標

1) 概要

- ① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。
- ② 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。
- ③ 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。
- ④ 歯周病予防を概説できる。
- ⑤ う蝕予防を概説できる。

2) 対象者の把握

- ① 歯科予防処置を実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる。

3) 歯・口腔の健康状態の把握

- ① 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる。
- ② 歯・口腔の健康状態を把握するための項目を列挙できる。
- ③ デンタルプラークの形成過程と成分を説明できる。
- ④ 歯石の形成過程と成分を説明できる。
- ⑤ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる。
- ⑥ 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる。

4) プラークコントロール

- ① 歯周病予防とプラークコントロールの関係について説明できる。
- ② う蝕予防とプラークコントロールの関係について説明できる。

2. 歯周病予防処置

一般目標：歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。

到達目標

1) 歯周病の基礎知識

- ① 歯周病と生活習慣の関連を説明できる。
- ② 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。

2) 歯周病リスクの情報収集と評価・計画

- ① 口腔内写真・エックス線画像から歯周組織の状態を説明できる。
- ② プローブの種類と操作方法を説明できる。
- ③ 歯周病に関連する指標を説明できる。
- ④ 歯周病に関連した歯・歯肉・口腔の検査ができる。
- ⑤ 診査の結果を説明できる。
- ⑥ 対象者の情報を分析し、歯周病予防計画を立案できる。

3) スケーリング・ルートプレーニング

- ① スケーラーの種類と使用目的を説明できる。
- *② 手用スケーラーを操作できる。
- *③ 超音波スケーラーを操作できる。
- *④ エアースケーラーを操作できる。
- *⑤ 歯周ポケット内のイリゲーション(洗浄)ができる。
- ⑥ シャープニングができる。

4) 歯面清掃・歯面研磨

- ① 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる。
- ② 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる。
- ③ 歯面研磨剤の種類と用途を説明できる。
- *④ 歯面清掃ができる。
- *⑤ 歯面研磨ができる。

5) SPT (歯周病安定期治療)

- ① SPT の目的を説明できる。
- ② SPT の処置内容を説明できる。
- ③ SPT 実施時の注意点を説明できる

6) メインテナンス

- ① 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。
- ② メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。
- ③ 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。

3. う蝕予防処置

一般目標：う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明できる。
- ② う蝕と全身疾患の関連を説明できる。
- ③ う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性、および便宜性を説明できる。
- ④ う蝕活動性試験の種類と方法および判定基準を説明できる。

2) う蝕リスクの情報収集と評価・計画

- *① う蝕活動性試験を実施できる。
- ② 対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる。

3) フッ化物応用によるう蝕予防

(1) フッ化物歯面塗布法

- ① 使用薬剤の種類と濃度、およびその取扱い方を説明できる。
- ② フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる。
- ③ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる。
- *④ フッ化物歯面塗布を実施できる。
- *⑤ フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。

(2) フッ化物洗口法

- ① 使用薬剤の種類、濃度および取扱い方を説明できる。
- ② 対象年齢と洗口方法を説明できる。
- *③ フッ化物洗口の実施ができる。
- *③ フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる。

(3) フッ化物配合歯磨剤

- ① 配合フッ化物の種類と特徴を説明できる。
- ② 年齢に応じた使用量を説明できる。

③ フッ化物配合歯磨剤の使用法を説明できる。

(4) ライフステージに応じたフッ化物応用

① ライフステージとリスクに応じたフッ化物応用の方法を説明できる。

6) 小窩裂溝填塞法

① 小窩裂溝填塞材の種類と特徴を説明できる。

② 小窩裂溝填塞の適応歯を説明できる。

③ 小窩裂溝填塞の術式を説明できる。

*④ 小窩裂溝填塞を実施できる。

*⑤ 小窩裂溝填塞実施上の注意点を説明できる。

7) メインテナンス

① う蝕予防処置におけるメインテナンスの目的を説明できる。

② メインテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。

③ う蝕のリスクとメインテナンスの必要性を説明できる。

D. 歯科保健指導論（*は対人実習が望ましい項目）

一般目標：健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。

1. 総論

一般目標：歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために専門的な知識、技術および態度を学ぶ。

到達目標

1) 概要

① 歯科保健指導の定義と特性を説明できる。

2) 基礎知識

① 行動科学の理論やモデルと行動変容を説明できる。

② 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用のポイントを説明できる。

③ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明できる。

3) 歯科衛生過程

- *① 歯科衛生の基礎となる適切なコミュニケーションをとることができる。
- *② 多面的なアセスメントができる。
- *③ 歯科衛生アセスメントに基づいた歯科衛生診断ができる。
- *④ 歯科衛生計画の立案と計画に基づいた歯科衛生介入ができる。
- *⑤ インフォームド・コンセント、インフォームド・アセントができる。
- *⑥ 歯科衛生介入結果の評価ができる。
- *⑦ 歯科衛生過程における歯科衛生業務の記録ができる。

2. 情報収集

一般目標：歯科保健指導の遂行に必要な、対象者（個人、集団、組織、地域）の情報について収集方法を習得する。

到達目標

1) 医療面接

- ① 医療面接の概要を説明できる。
- *② 歯科衛生実践への動機づけ面接ができる。

2) 全身の健康状態の把握

- ① 全身的な健康状態を把握するための項目を説明できる。
- *② 病歴の聴取ができる。
- ③ 歯科衛生実践に必要な臨床検査項目を列挙できる。
- *④ 認知状態・精神状態を把握できる。
- *⑤ 生活機能・口腔機能を把握できる。
- ⑥ 虐待により生ずる心身の変化を説明できる。
- *⑦ 服薬の把握ができる。
- ⑧ ストレスの評価ができる。

2) 生活環境と生活背景の把握

- *① 対象者の生活環境と生活背景を把握できる。
- *② 対象者の生活習慣を把握できる。
- *③ 対象者の日常生活動作を把握できる。

3) 歯・口腔状態の把握

- *① 歯・口腔の疾患および異常の観察と評価ができる。
- *② 口腔清掃状態の観察とリスク評価ができる。

- *③ 口腔機能のスクリーニングテストとリスク評価ができる。
- ④ 虐待の歯科的特徴を説明できる。

3. 口腔衛生管理

一般目標：口腔衛生管理を行うために対象者の問題点を把握し必要な知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① 口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。
- ② 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。
- ③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。

2) 指導の要点

- *① 口腔衛生状態の背景を説明できる
- *② 口腔衛生状態の問題点を説明できる。
- *③ 口腔衛生改善のための介入計画が立案できる。
- *④ 口腔衛生改善のための介入ができる。
- *⑤ 口腔衛生改善のための評価ができる。
- *⑥ 口腔衛生管理について書面化（業務記録）できる。

3) リスクに応じた指導法

- *① う蝕のリスクに応じた指導ができる。
- *② 歯周病のリスクに応じた指導ができる。
- *③ 不正咬合に応じた指導ができる。
- *④ 義歯装着に応じた指導ができる。
- *⑤ 口臭に関する指導ができる。
- *⑥ 口腔乾燥に関する指導ができる。

4) 対象別の指導法

- ① 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。
- *② 各ライフステージ別の指導ができる。
- *③ 特別配慮を要する妊産婦・全身疾患患者・周術期患者・障害児者・要介護者・大規模災害被災者を想定した指導ができる。

4. 生活習慣指導

一般目標：生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために対象者の問題点を把握し、専門的知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。
- ② 非感染性疾患（NCDs）の種類と特徴および口腔との関連を説明できる。
- ③ ストレスマネジメントを説明できる。

2) 指導の要点

- *① 生活習慣状態の背景が説明できる
- *② 生活習慣状態の問題点を説明できる。
- *③ 生活習慣改善のための介入計画が立案できる。
- *④ 生活習慣改善のための介入ができる。
- *⑤ 生活習慣改善のための評価ができる。
- *⑥ 生活習慣指導について書面化（業務記録）できる。

3) 対象別の指導法

- *① 非感染性疾患（NCDs）の症例に合わせた生活習慣指導ができる。
- *② 対象者の疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる。
- *③ 配慮を要する対象者の生活習慣指導ができる。
- ④ 禁煙支援ができる。

5. 食生活指導

一般目標：ライスステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、対象者の問題点を把握し専門的知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① 食品とう蝕の関連性を説明できる。
- ② 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。
- ③ う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。
- ④ 咀嚼の働きを説明できる。
- ⑤ 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連を説明できる。

2) 指導の要点

- *① 食生活・食習慣の背景を説明できる。
- *② 栄養状態を把握し問題点を評価できる。
- *③ 食支援のための介入計画が立案できる。
- *④ 食支援に必要な歯科衛生介入ができる。
- *⑤ 食生活改善の取組みとして口腔衛生と口腔機能の関連を説明できる。
- *⑥ 食生活指導について書面化（業務記録）できる。

3) 対象別の食生活指導

- *① 各ライフステージ別の食生活指導ができる。
- *② 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。
- *③ 全身疾患患者・障害児者、要介護者、周術期患者等の食事介助の指導ができる。
- ④ 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。

6. 健康教育活動

一般目標：健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。
- ② 健康教育に必要な情報を収集できる。
- ③ 健康教育の計画立案ができる。
- ④ 健康教育の内容を説明できる。
- ⑤ 健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。
- ⑥ 健康教育活動の方法を説明できる。
- ⑦ 健康教育の評価を説明できる。

2) 対象別健康教育

- ① 集団・組織・地域の実態が把握できる。
- ② 対象者の特性と口腔保健ニーズの把握ができる。
- ③ 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。
- ④ 保育所、幼稚園（乳幼児）、認定こども園の口腔保健の実態が把握できる。
- *⑤ 保育所、幼稚園（乳幼児）、認定こども園を対象とした健康教育ができる。
- *⑥ 保育所、幼稚園、認定こども園の保育士、教員および保護者を対象とした健康教育ができる。
- ⑦ 小学校、中学校、高等学校（児童・生徒等）の口腔保健の実態が把握できる。

- *⑧ 小学校、中学校、高等学校（児童・生徒等）を対象とした健康教育ができる。
- *⑨ 小学校、中学校、高等学校の教職員および保護者を対象とした健康教育ができる。
- ⑩ 事業所（労働者）の口腔保健の実態が把握できる。
- *⑪ 事業所の従業者・衛生管理者を対象とした健康教育ができる。
- *⑫ 要介護者の家族・介護者の健康教育ができる。
- *⑬ 保健所・市町村保健センターにおける健康教育ができる。
- *⑭ 介護施設・障害者施設等における健康教育ができる。

E. 歯科診療補助論（*は対人実習が望ましい項目）

一般目標：さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。

1. 歯科診療補助

一般目標：専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 概要

- ① 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを説明できる。
- ② 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を説明できる。
- ③ チーム歯科医療の必要性を説明できる。
- ④ 歯科訪問診療のための保健・医療・福祉のシステムを概説できる。

2) 情報収集

- ① 医療面接で全身および口腔の自覚症状(主観的情報)を読み取ることができる。
- ② 全身疾患の症状を読み取ることができる。
- ③ 生体検査の方法と結果を読み取ることができる。
- ④ 血液検査の結果を読み取ることができる。
- *⑤ モニターによる結果を読みとることができる。
- ⑥ 心身の成長・発達の状態を把握できる。
- ⑦ 服用している薬を把握できる。
- ⑧ 歯科治療に必要な検査で他覚症状(客観的情報)を読み取ることができる。

3) 患者への対応

- *① 全身疾患を考慮した対応ができる（身体機能含む）。
- *② 高齢者に配慮した対応ができる。
- *③ 妊産婦に配慮した対応ができる。
- *④ 通院困難者に配慮した対応ができる。
- *⑤ 障害に配慮した対応ができる。

*⑥ 感染症に配慮した対応ができる。

4) 診療時の共同動作

*① フォーハンドシステムの基本動作ができる。

*② 診療に応じた共同動作ができる。

*③ 診療に応じたバキューム操作ができる。

5) 診療設備の管理

① 診療設備が整えられる。

② エアーコンプレッサーの管理ができる。

*③ 歯科用ユニットの管理ができる。

*④ 口腔外バキュームの管理ができる。

*⑤ エックス線撮影装置の管理ができる。

*⑥ 酸素吸入器の管理ができる。

*⑦ レーザー装置の管理ができる

*⑧ 薬品、歯科材料の管理ができる。

6) 医療安全管理

*① 感染に応じた対応ができる。

*② スタンダードプレコーションができる。

*③ 医療廃棄物の取扱いができる。

*④ 偶発事故に適切な対応ができる。

7) 消毒・滅菌

① 消毒・滅菌・洗浄を説明できる。

② 消毒薬、各種滅菌器械・器具を説明できる。

*③ 消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作・取扱いができる。

*④ 消毒薬、各種滅菌器械・器具の管理ができる。

2. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理

一般目標：歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。

到達目標

1) 模型用材料

① 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる。

*② 模型用材料の取扱いができる。

2) 合着・接着・仮着用材料

① 合着・接着・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる。

*② 各種合着・接着・仮着用材料の取扱いができる。

3) 印象用材料

- ① 印象材の種類と基本的性質を説明できる。
- *② 各種印象材の取扱いができる。
- *③ 概形印象の採得ができる。

4) 歯冠修復用材料

- ① 歯冠修復材の種類と基本的性質を説明できる。
- *② 歯冠修復材の取扱いができる。

5) 仮封用材料

- ① 仮封材の種類と基本的性質を説明できる。
- *② 仮封材の取扱いができる。

6) その他の材料

- ① ワックスの基本的性質を説明できる。
- ② 義歯用材料の基本的性質を説明できる。
- ③ インプラント用材料の使用目的を説明できる。

3. 保存治療時の診療補助

一般目標：保存治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 前準備

- ① 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。
- *② ラバーダム防湿ができる。
- *③ 隔壁法に用いる器具の操作ができる。
- *④ 歯肉排除法に用いる器材の操作・取扱いができる。
- *⑤ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる。

2) 窩洞形成

- ① 切削用器械、器具の取扱いと管理ができる。

3) 直接修復

- ① コンポジットレジン修復の手順を説明できる。
- *② 歯面処理材料の準備ができる。
- *③ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。
- ④ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。
- *⑤ グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる。
- *⑥ 直接修復治療後の指導ができる。

4) 間接修復

- ① インレー修復の手順を説明できる。
- *② インレー修復の準備ができる。
- *③ 合着後の余剰セメントの除去ができる。
- *④ 間接修復治後の指導ができる。

5) 歯の漂白

- ① 漂白法の適応症を説明できる。
- ② 漂白法の種類を説明できる。
- ③ 漂白法の手順を説明できる。
- *④ 漂白法の器材・薬剤の準備ができる。
- *⑤ 漂白後の術後指導ができる。

6) 歯髄処置

- ① 歯髄処置の手順を説明できる。
- ② 歯髄処置の薬剤や器材の準備ができる。
- *③ 電気歯髄診断器の取扱いができる。

7) 根管処置

- *① 根管処置の薬剤や器材の取扱いができる。
- *② 根管長測定器の取扱いができる。
- *③ 根管充填の薬剤や器材の種類と取扱いができる。
- *④ 根管治療後の指導ができる。

8) 外科的歯内療法

- *① 外科的歯内療法の器材の取扱いができる。

9) 歯周外科治療

- ① 歯周外科治療の手順を説明できる。
- *② 歯周外科治療の薬剤や器具の取扱いができる。
- *③ 歯周外科治療の補助の概要を説明できる。
- *④ 歯周用パットの取扱いができる。
- *⑤ 歯周外科処置後の指導ができる。

4. 補綴治療時の診療補助

一般目標：補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 検査

- ① 補綴治療に必要な各種検査を説明できる。

*② 補綴治療に用いる各種検査器材の準備ができる。

2) 印象採得

① 印象採得の手順を説明できる。

*② 印象採得で用いる器材の準備と取扱いができる。

3) 咬合採得（顎間関係の記録）

① 咬合採得の手順を説明できる。

*② 咬合採得で用いる器材の準備と取扱いができる。

③ 咬合床作製の手順を説明できる

④ 咬合床用材料の性質を説明できる。

⑤ ろう義歯試適の器材の説明ができる。

4) プロビジョナルレストレーション（テンポラリークラウン、ブリッジ）

① プロビジョナルレストレーション（テンポラリークラウン、ブリッジ）の製作手順を説明できる。

② プロビジョナルレストレーション（テンポラリークラウン、ブリッジ）の調整方法を説明できる。

5) 補綴装置の装着

*① 床義歯装着時に用いる器材の準備ができる。

*② クラウン・ブリッジ装着時に用いる器材の準備ができる。

*③ 義歯装着後の指導ができる。

*④ インプラント装着後の指導ができる。

5. 口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助

一般目標：口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 抜歯

① 手術同意書取得時のインフォームド・コンセントについて説明できる。

*② 抜歯用器材の準備と取扱いができる。

*③ 抜歯後の注意を説明できる。

2) 小手術

① 手術同意書取得時のインフォームド・コンセントについて説明できる。

*② 各種小手術に用いる器材の準備と取扱いができる。

*③ 各種小手術後の注意事項を説明できる。

3) 止血処置

- ① 止血法を説明できる。
- ② 止血薬の種類を説明できる。
- *③ 止血薬の取扱いができる。

4) 縫合

- ① 縫合用器材の種類を説明できる。
- *② 縫合用器材の準備と取扱いができる。

5) 麻酔

- *① 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取扱いができる。
- ② 精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取扱いができる。
- ③ 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助ができる。
- ④ 静脈の確保について概説できる。

6) 周術期の口腔健康管理

- ① 周術期における口腔健康管理の目的を説明できる。
- ② 周術期における歯科衛生士の役割を説明できる。
- ③ 周術期口腔機能管理の流れについて概説できる。
- ④ 化学療法・放射線治療法の有害事象について説明できる。
- ⑤ 術前・術中・術後の歯科衛生介入に必要な患者情報を説明できる。
- *⑥ 周術期の口腔衛生管理および口腔機能管理ができる。
- *⑦ 歯科衛生介入時の留意点を説明することができる。

6. 矯正歯科治療の診療補助

一般目標：矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 器具・材料

- ① 矯正歯科用器材の種類を説明できる。

2) 検査記録

- ① 口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。
- ② 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる。
- ③ 矯正用口腔模型の作製法を説明できる。

3) 装置の装着

- *① 歯面清掃ができる。
- ② 接着材の種類と用途を説明できる。
- *③ 接着材の取扱いができる。
- ④ 帯環（バンド）の種類を説明できる。

- *⑤ 帯環（バンド）の取扱いができる。
- ⑥ ワイヤの種類と用途を説明できる。
- *⑦ ワイヤの取扱いができる。
- ⑧ ブラケットの種類と用途を説明できる。
- *⑨ ブラケットの取扱いができる。
- ⑩ 結紮の方法を説明できる。
- ⑪ ディボンディングの手順が説明できる。
- *⑫ 矯正装置装着後の指導ができる。

4) 装置の撤去

- ① 撤去に必要な器具の種類を説明できる。
- *② 撤去に必要な器具の取扱いができる。

7. 小児歯科治療時の診療補助

一般目標：小児歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 小児の歯科治療

- *① 小児の状態把握と対応ができる。
- *② 治療に必要な器材・薬剤の準備ができる。
- *③ ラバーダム防湿ができる。

2) 妊産婦の歯科治療

- ① 妊産婦の状態把握と対応ができる。

8. 高齢者歯科治療時の診療補助

一般目標：高齢者歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 高齢者の歯科治療

- *① 高齢者の状態把握と対応ができる。
- ② 外来診療と訪問診療の補助を説明できる。
- *③ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。
- ④ 口腔衛生管理の概要を説明できる。

9. 障害児者歯科治療時の診療補助

一般目標：障害児者歯科治療の補助のために必要な患者対応、摂食嚥下の検査および訓練法を習得する。

到達目標

1) 障害児者の歯科治療

- *① 障害児者の状態把握と対応ができる。
- ② 治療前の導入法を説明できる。
- ③ 治療中の体動の調整法を説明できる。
- ④ 歯科治療における小児の行動療法について概説できる。
- ⑤ 外来診療と訪問診療の補助を概説できる。
- ⑥ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。
- ⑦ 口腔衛生管理の概要が説明できる。
- *⑧ 摂食嚥下障害への対応ができる。

10. エックス線写真撮影時の診療補助

一般目標：エックス線写真撮影時の補助のために必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。

到達目標

1) 撮影装置と取扱い

- *① エックス線撮影装置の準備ができる。
- ② 歯科用・パノラマ用撮影装置・デジタル画像システムの取扱いを説明できる。

2) 口内法撮影

- *① 頭部の固定ができる。
- *② 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。
- *③ パノラマエックス線撮影の準備ができる。

3) 写真の処理と管理

- *① 写真の処理ができる。
- *② 写真の画像管理ができる。

4) 放射線の人体への影響と防護

- ① 放射線の人体への影響を説明できる。
- *② 放射線防護の準備ができる。
- *③ 患者や術者の放射線防護ができる。
- *④ 被曝量の測定準備ができる。

11. 救命救急処置

一般目標：救命救急処置のために必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 全身管理とモニタリング

- *① バイタルサインの測定ができる。
- *② 意識レベルの把握ができる。
- *③ 血圧、脈拍、心機能、呼吸のモニタリングができる。

2) 救命救急処置

- ① 一次救命処置の手順を説明できる。
- *② 一次救命処置に用いる器材の準備ができる。
- ③ 二次救命処置の手順を説明できる。
- *④ 二次救命処置に用いる器材の準備ができる。
- *⑤ AED の取扱いができる。
- ⑥ 全身的偶発症への対応ができる。

12. 口腔機能管理

一般目標：口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① 人体の加齢と老化の特性と機序および寿命を概説できる。
- ② 口腔機能管理の目的を概説できる。
- *③ 口腔機能リハビリテーションを説明できる。
- *④ 口腔機能獲得の指導ができる。
- ⑤ 口腔機能低下に伴う全身疾患と治療の概要を説明できる。
- ⑥ チーム医療における歯科衛生士の役割と関わる関連職種と多職種連携を説明できる。

2) 評価

- *① 口腔機能の現状を把握するための評価ができる。
- *② 対象者の摂食嚥下状態の評価・検査ができる。
- ③ 対象者の歯科治療の要否を概説できる。

3) 機能障害別の対応

- *① 口腔機能訓練ができる。
- *② 食事指導・支援や摂食介助ができる。
- ③ 嚥下障害・構音障害への対応ができる。

4) 対象別指導

- *① ライフステージに応じた口腔機能管理と指導ができる。
- *② 配慮を要する人への口腔機能管理と指導ができる。
- ③ 緩和ケア・ターミナルケアを説明できる。

F. 臨地実習（臨地・臨床実習）（努力目標として、参加型実習ができるように考慮する）

1. 歯科臨床の場での歯科衛生実践

一般目標：歯科衛生士の役割を理解するために、病院や診療所などの歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な実践力を身につける。

到達目標

1) 対人関係

- ① 患者の状態を正しく把握し歯科診療を安全に受けってもらうための対応ができる。
- ② 歯科医師からの指導・指示に対応できる。
- ③ 歯科医師、歯科衛生士および他の多職種との協働し、連携のとれた患者への対応ができる。
- ④ プライバシーに配慮できる。
- ⑤ 患者の守秘義務を遵守できる。

2) 診療室の管理

- ① 診療室のルールを遵守できる。
- ② 医療安全管理に配慮できる。
- ③ 感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策ができる。
- ④ 器材や機器および薬品を管理できる。
- ⑤ 患者のデータ管理ができる。

3) 歯科衛生実践

- ① 患者のニーズを判断し対応ができる。
- ② 歯科衛生過程に基づき歯科衛生計画を立案できる。
- ③ 必要なスクリーニング検査および各種検査を把握して歯科衛生実践ができる。
- ④ 歯科衛生を実践するにあたって、その必要性を科学的に説明できる。
- ⑤ 必要な情報を収集し、歯科衛生実践ができる。
- ⑥ 患者に応じた口腔健康管理ができる。
- ⑦ 歯科医師、歯科衛生士および他の多職種と連携して共同動作と必要な対応ができる。
- ⑧ 医療チームの一員として、歯科衛生実践ができる。
- ⑨ 業務記録を記述できる。
- ⑩ カンファレンスで適切に発言できる。

2. 地域保健活動等の場での歯科衛生実践

一般目標：歯科衛生士の役割を理解するために、地域保健活動などの場（保育所・幼稚園・認定こども園・学校および地域保健・福祉施設）を通して歯科衛生士として必要な実践力を

身につける。

到達目標

1) 対人関係

- ① 対象者からのニーズに対応できる。
- ② 対象者の状況に応じて配慮できる。
- ③ 歯科医師、歯科衛生士および他の多職種と協働し、連携のとれた対象者への対応ができる。
- ④ プライバシーに配慮できる。
- ⑤ 対象者の守秘義務を遵守できる。

2) 施設等の管理（運営）

- ① 施設等のルールを遵守できる。
- ② 安全管理に配慮できる。
- ③ 感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策ができる。
- ④ 器材や機器および薬品を管理できる。
- ⑤ 対象者のデータ管理ができる。

3) 歯科衛生実践

- ① 対象者のニーズを判断し対応ができる。
- ② 指導者からの指導・指示内容を理解した歯科衛生実践ができる。
- ③ 歯科医師、歯科衛生士および他の多職種と連携して必要な対応ができる。
- ④ 保健・医療・福祉チームの一員として、歯科衛生を実践できる。
- ⑤ 対象者に応じた口腔健康管理ができる。
- ⑥ 集団・組織・地域を対象に健康教育が実践できる
- ⑦ 現場に応じた業務記録を記述できる。
- ⑧ カンファレンスで適切に発言できる。

臨地実習の実施計画について

- (1) 臨地実習については、1 単位を 45 時間の実習をもって構成することとし、実習時間の 3 分の 2 以上は病院、診療所、歯科診療所において行うこと。
(総実習時間数：20 単位，900 時間)
- (2) 実習時間の目安としては、病院、診療所、歯科診療所（臨床）等 660～765 時間（1 日を 6 時間）、高齢施設や集団指導等 135～200 時間（1 日を 6 時間）とする。
- (3) 臨地実習は、実践活動の場において行う実習のみを指すものであること。
- (4) 臨地実習は原則として昼間に行うこと。
- (5) 臨地実習は、地域の特性を考慮した実習計画を作成すること。また、ライフステージを配慮した計画にすること。
- (6) 早期（1 年次）に、臨地実習現場の見学実習（体験実習）を組むことが望ましい。
- (7) 臨地実習は、実習施設の実情を踏まえて計画すること。

ライフステージ別の臨地実習について（参照）

ライフステージ	実習施設	実習内容
胎児期（妊婦）	市町村保健センター、保健所、病院	妊婦歯科健康診査、両親学級等での健康教育、健康相談、公衆歯科衛生活動、歯科保健教育
乳・幼児期	市町村保健センター、保健所、保育所、幼稚園、認定こども園	乳児歯科健康診査、育児相談、1歳6か月児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査など 健康診査後の健康教育、健康相談 公衆歯科衛生活動 保育所、幼稚園、認定こども園での歯科保健教育、保育体験、
学 齡 期	小学校、中学校	健康診断（歯科健康診断）、歯科保健教育
青 年 期	高等学校	健康診断（歯科健康診断）、歯科保健教育
成 人 期	市町村 事業所（企業）	特定健康診査、特定保健指導、一般健康診査（歯周疾患検診）など 健康診査後の健康教育、健康相談 事業所での健康診査、歯科保健教育
老 年 期	市町村保健センター、通所介護施設、老人保健・福祉施設など 在宅・訪問を実施している歯科診療所	特定高齢者健康診査、健康教育、健康相談 地域支援事業（口腔機能の向上） 施設等での歯科健康診査、食事の介助、口腔清掃（口腔健康管理） 在宅訪問（歯科保健指導、歯科診療）
終 末 期	病院 在宅・訪問を実施している歯科診療所	ターミナルケア

*上記の記載事項については努力目標として、参加型実習ができるように考慮する。

麻酔時の補助、障害児者への支援、および周術期・終末期への支援

	実習施設	実習内容
麻酔時の補助	病院、連携する歯科医療機関（在宅訪問、介護施設）	全身麻酔・精神鎮静法時の器材・薬剤の準備 （静脈路の確保、および点滴の準備も含む）
障害児者への支援	特別支援学校、口腔保健センター、障害者福祉施設（身体・認知・精神障害等）など	特別支援学校での歯科保健指導 障害者への歯科診療、健康教育、口腔健康管理
周術期・終末期への支援	病院、連携する歯科医療機関（在宅訪問、介護施設）	周術期の患者への口腔健康管理、感染予防対策、食事指導、歯科診療、健康教育 緩和ケア、ターミナルケア

*上記の記載事項は、できるだけ見学・実習ができるように考慮する。

G. 歯科衛生学研究

一般目標：保健・医療・福祉に携わる者のアイデンティティである、歯科衛生学研究への理解や実践を通じて、対象者および集団に対して適切な歯科衛生を提供するための課題発見・解決の手段を学修する。

到達目標

- ① 歯科衛生実践のために研究が必要であることを理解できる。
- ② 歯科衛生実践時の課題発見とその解決手法を理解できる。
- ③ 歯科衛生に関する文献や統計資料の検索と解釈ができる。
- ④ 研究に関する倫理的配慮の必要性が理解できる。

歯科衛生学教育コア・カリキュラム（改訂版）小委員会委員と担当分野

教育問題検討委員会：高阪利美担当理事・委員長、合場千佳子担当理事、大川由一、池田利恵、白鳥たかみ、山田小枝子、犬飼順子、升井一朗、畠中能子、日野出大輔、

統括： 眞木吉信		委員長：高阪利美
分野		分担（所属）
前文・総括		眞木吉信（理事長）
基礎分野	A 科学的思考の基盤	★池田利恵（日本歯科大学東京短期大学）
	B 人間と生活	犬飼順子（愛知学院大学短期大学部）
専門基礎分野	A 人体の構造と機能	池田利恵（日本歯科大学東京短期大学）
	B 歯・口腔の構造と機能	大川由一（千葉県立保健医療大学健康科学部）
	C 疾病の成り立ち及び回復過程の促進	日野出大輔（徳島大学）
	D 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	★犬飼順子（愛知学院大学短期大学部）
専門分野	歯科衛生学総論（歯科衛生士概論）	★合場千佳子（日本歯科大学東京短期大学） 山田小枝子（朝日大学歯科衛生士専門学校）
	臨床歯科医学 臨床総論・口外/麻酔保存・歯周補綴・小歯・矯正高齢者・障害歯	★升井一朗（医社 広仁会広瀬病院） 大川由一、角田晃（神奈川歯科大学短期大学部） 犬飼順子、斎藤正人（北海道医療大学歯科衛生専門学校） 日野出大輔、斎藤正人
	歯科予防処置論	★白鳥たかみ（東京歯科大学短期大学部） 畠中能子（関西女子短期大学）
	歯科保健指導論	★高阪利美（愛知学院大学短期大学部） 白鳥たかみ（東京歯科大学短期大学部）
	歯科診療補助論	★山田小枝子（朝日大学歯科衛生士専門学校） 高阪利美（愛知学院大学短期大学部）
	臨地実習（臨床実習含む）	★畠中能子（関西女子短期大学） 合場千佳子（日本歯科大学東京短期大学）
選択	歯科衛生学研究	★眞木吉信（東京歯科大学）
協力者	専門基礎分野 歯科衛生学総論 臨床歯科医学	遠藤圭子（東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科） 近藤健示（日本医歯薬専門学校歯科衛生学科）